

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年11月11日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 大田花き

コード番号 7555 URL <http://www.otakaki.co.jp>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 磯村 信夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役管理本部長 (氏名) 金子 和彦

TEL 03-3799-5571

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	12,567	△3.5	102	△5.6	123	△0.8	72	△0.9
23年3月期第2四半期	13,022	3.4	108	12.4	124	6.0	72	4.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	14.50	—
23年3月期第2四半期	15.56	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	6,210	4,272	68.8	856.81
23年3月期	5,839	4,249	72.8	852.31

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 4,272百万円 23年3月期 4,249百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,902	△0.2	275	24.3	299	21.1	175	20.4	35.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	5,500,000 株	23年3月期	5,500,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	513,799 株	23年3月期	513,799 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	4,986,201 株	23年3月期2Q	4,689,693 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	5
(3) 業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
第2四半期累計期間	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(7) 重要な後発事象	10
5. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、欧米経済の影響を受けながらも、3.11による鉱工業生産の落ち込みから脱しつつあり、消費マインドも上を向いて、前年並みの実績に戻る指標が多くなってきました。また、この期間の日本経済は円高で、3.11後の在りようを模索するグローバル企業と、そのような対応が難しい中小企業とに分かれました。

このような経済状況の下で当社は、花きの出荷地域別割合を見ると、第1四半期会計期間においては西日本のウエイトが高まっていたましたが、北関東・東北支援のため産地営業を行い、出荷比率を前年同様に戻してもらうことで、お盆・お彼岸の需要期に備えました。また、母の日以降、花き需要も順調に戻り始めたため、当社の売上高も前年比96.5%のところまで回復しました。教養・娯楽向けの支出は低調ですが、花は「つながり消費」の対象物でもあるため、冠婚葬祭の業務需要や個人消費は回復傾向にあります。しかし法人需要の力強さには欠けるという状態になって、第2四半期を終えました。

以上の結果、当第2四半期累計期間（平成23年4月～9月）の業績は、売上高12,567,457千円（前年同四半期比3.5%減）となり、内訳をみますと、切花の取扱高11,528,742千円（前年同四半期比3.9%減）、鉢物の取扱高983,988千円（前年同四半期比0.8%増）、付帯業務収益54,725千円（前年同四半期比7.0%増）となりました。利益につきましては、営業利益102,692千円（前年同四半期比5.6%減）、経常利益123,389千円（前年同四半期比0.8%減）、四半期純利益72,305千円（前年同四半期比0.9%減）と減収減益となりました。

切花、鉢物に関する品目別の概況は次の通りです。

切花

キク類	売上金額	2,573,985千円（前年同期比8.3%減）
	取扱数量	54,879千本（同 6.1%増）

・輪菊では白菊が、周年産地を中心に順調な入荷となり、前年並の入荷量になりました。しかし春先には例年に比べると大きな葬儀が減少し需要が伸びなかったことに加え、前年の夏がかつてない高騰市況だったこともあり、販売金額で前年と比べると大幅な下落となりました。しかしお彼岸の需要期を過ぎると一転して品薄となり、価格も上昇しました。色菊は春先こそ作付量の減少や生育遅れなどのため入荷量が減少しましたが、お盆やお彼岸需要期の生育は順調で前年を上回る入荷量となりました。

・小菊は仏花需要が低迷していた4～5月には相場が低迷し、入荷量も伸び悩みました。前年は、7～9月のお盆・お彼岸の需要期に猛暑の影響を受け、深刻な品薄となり価格も上昇しましたが、本年は生育が順調であったことに加え、当社としても集荷強化に努めた結果、前年はもとより、例年をも上回る入荷量となりました。販売面から見ても、お盆・お彼岸の需要期は注文も多く、量販店や花束加工業者向け取引も好調であったため、販売金額においても前年を上回りました。

・スプレー菊は時期によっては輸入品などに生育遅れが見られましたが、概ね前年並みの入荷量となりました。しかし、前年の夏は小菊の深刻な品薄を受け、スプレー菊の価格も上昇したため、前年に比べると価格が下がり、販売金額で比較した場合もややマイナスになっています。

洋ラン・バラ・カーネーション	売上金額	2,892,692千円（前年同期比2.8%減）		
	取扱数量	50,440千本（同 2.4%増）		

・バラは、前年並みの入荷量、売上金額となりました。震災後の自粛ムードによって、ブライダルやイベント等のキャンセルが相次いだ4月は、業務需要を中心に販売が低迷しました。5月以降、母の日などを経て、次第に需要が回復しはじめ、少しずつ持ち直しましたが、暑さのため日持ちしにくい花材であることに節電が加わった7月は振るいませんでした。8月のお盆後にはブライダルフェアなども多く、国内の高冷地産及び輸入の大輪系を中心に好調な取引となりました。9月に入るとブライダル需要が動き始めるも、ピークは10月のため、前年に比べるとやや落ち着いたものとなりました。その中でも定番の白系は需要に見合った入荷量となり、堅調な取引となりました。

・カーネーションは、母の日需要における事前の注文こそ前年に届きませんでしたが、間際での駆け込み需要などが活発でした。前年の夏は猛暑だったこともあり、季節性の高い品目の開花時期が遅れるなどし、それらに代わる花としての需要が旺盛でしたが、本年は一転して季節品目の生育が順調であったため、代替品としての需要は減退しました。また、お盆需要期には国産・輸入品ともに潤沢な入荷となりましたが、暑さのため品質がやや低下したこともあり、価格を下げました。9月になるとブライダル需要が本格化し始めますが、国産のブライダル向けの品種は引き合いが強く、端境期であることも手伝って不足感がありました。

・洋ラン類ではデンファレが、国内産地の低温、海外の主力産地の雨季や台風の影響を受け、入荷量が減少しました。入荷を促すよう努めるも十分に伸びず、また、販売面においても春先の仏花需要の低迷や他品目の台頭などにより低迷しました。しかし、9月のブライダル需要においては、白系を中心に引き合いが強まっています。オンシジュームは9月、天候の影響から生産サイクルにずれが生じ、前年を大幅に下回る入荷量となりました。そのため下位等級品から上位等級品まで品薄高で推移しました。

・トロピカル商材として人気のあるアンズリウムは、全体としては前年並みの入荷量となりましたが、上位等級品が少なく、下位等級品には潤沢感があり価格が低迷したことで、前年を下回る販売金額となりました。

球根類	売上金額	1,684,975千円（前年同期比2.3%減）		
	取扱数量	19,314千本（同 3.6%増）		

・ユリ類では、テッポウユリが4月から6月にかけては潤沢な入荷となりましたが、この間は仏花などの需要に乏しく、相場は低迷しました。7月から9月にかけては主力産地で大雨が降るなどしたこともあり、前年に比べるとやや少なめの入荷となりました。そのためお盆やお彼岸の需要期には堅調な取引となりました。オリエンタルユリは、入学式や春先のイベント関連の需要では、震災後の自粛ムードもあり販売に苦戦しましたが、7月以降はお盆やお彼岸、秋のブライダル需要によって引き合いがあり、前年並みの取引となりました。

・カラーは期間を通してみると前年並みの入荷量、販売金額となりました。しかし夏場には高温の影響から品種によっては品質にバラツキが見られるなどしました。ブライダル需要において、白系を中心に取引されました。

・ダリアは期間を通してみると、前年を上回る入荷量になり、やや相場を下げっていますが、数量の増加がそれを上回ったため、販売金額においても前年を超えました。夏の高温や9月下旬の急激な気温低下等によって、時期によってはやや不安定な入荷となりましたが、猛暑のため秋のブライダルシーズンで大幅に入荷量が減少した前年に比べると不足感はいくぶん緩和され、白・赤系などを中心に堅調な取引となりました。

草花類	売上金額	3,079,383千円（前年同期比2.8%減）		
	取扱数量	63,276千本（同 0.8%減）		

・トルコギキョウは、期間を通して前年を下回る取扱数量となりました。これは、生育期に低温であったために開花が遅れたこと、震災の影響で作付けが遅れたり減少したことによります。特に8月から9月にかけては、取扱数量の減少する中、お盆や秋のブライダルといった需要が旺盛だったため、引き合いが強まり、活発な取引となりました。

・カスミソウは、期間を通してみると、ほぼ前年並みの取扱数量となりました。しかし時期によっては、冷え込みや震災の影響により出荷が遅れることもありました。特に9月には主力産地にて大雨が降るなど、天候要因から品薄傾向となりました。入荷量次第の相場展開でしたが、葬儀・婚礼といった業務需要や、花束加工業者などを中心に取引されました。

・ガーベラは、冷え込み、主力産地における台風被害といった影響や、改植時期であることなどから、取扱数量が前年をやや下回りました。需要においても、震災後の自粛ムードが残る春、日持ちの面で販売に苦戦しがちな夏と低迷が続きました。

・リンドウは前年を上回る取扱数量、販売金額になりました。お盆やお彼岸の需要期には、仏花向けの花材として、量販店や花束加工業者を中心に活発に取引されました。前年、悪天候により全国的に開花が大幅に遅れ、需要期に大きく不足したことを受け、本年は事前の注文も多くありました。当社ではそれらに比べられるよう集荷に努めました。お盆、お彼岸の需要期にかけては、リンドウに引っ張られ、スターチスの取扱いも好調でした。スターチスは8～9月にかけて、仏花向けとして下位等級品を中心に引き合いが強まりました。

枝物・葉物	売上金額	1,297,705千円（前年同期比1.6%減）		
	取扱数量	27,384千本（同 1.1%減）		

・枝物は、4～6月にかけては春の低温や冷え込みなどによって、出荷が遅れるものもあり、入荷量がやや減少しました。夏は、前年が猛暑により品薄傾向であったため、それに比べると各産地とも生育は順調で、入荷量は増加しています。しかし品種によっては品薄のものもあったことから、安定した取引となりました。

・葉物は期間を通してみると前年並みの入荷数量、販売金額となりました。震災後間もない4月には、相場が不安定だったこともあり、輸入品を中心に出荷を見極めようとする動きがあり、入荷量が減少しましたが、その後は需要の回復とともに相場も戻り、入荷量も前年並みとなりました。夏になると、台風の影響を受けた国内の主力産地からの入荷がやや少なくなることもありました。定番商材を中心とした販売となっています。

鉢物

鉢物	売上金額	983,988千円（前年同期比0.8%増）		
	取扱数量	4,543千鉢（同 1.4%増）		

・洋ラン類では主力のファレノにおいて、入荷量が減少しました。そのため、前年を上回る価格帯で推移していますが、数量減を補い切れず、販売金額ではわずかに前年に届きませんでした。数量の減少は、震災後の先行きの不透明感から苗のキャンセルをする生産者がいたこと、停電や節電の影響から十分な温度管理ができなかったことなどが主な要因となっています。

・花鉢類は、カーネーション等の母の日ギフト商材が、事前のカタログ販売等においては振るいませんでしたが、直前になると駆け込み需要が旺盛で、活発に取引されました。しかし、夏を迎えると暑さとともに入荷数量が減少、品質面でも発色・ボリューム不足などが見られました。しかし小売店頭などでの売れ行きも鈍いことから、相場には反映されにくく、低迷しました。

・観葉植物は、品揃えの強化に取り組み、フェアを開催するなどしたことで、前年を上回る販売金額となっています。夏以降は量販店向けの販売などが好調です。

・苗物類は前年を上回る入荷量、販売金額となりました。これは、春先の天候が穏やかだったことにより、ガーデニング需要等が活発であったこと、節電対策としてグリーンカーテン関連の商材に注目が集まったことなどによります。また、例年では暑さのため夏場の取引は低迷しがちですが、今年は7月の後半から8月にかけて暑さがやや落ち着いた時期があり、その間には活発に取引されました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較して370,517千円増加し、6,210,360千円となりました。その主な内訳は、資産につきましては現金及び預金の増加158,933千円、売掛金の増加444,603千円、有価証券の減少100,000千円であります。

負債につきましては、前事業年度末と比較して348,074千円増加し、1,938,136千円となりました。その主な内訳は、受託販売未払金の増加300,549千円であります。純資産につきましては、前事業年度末と比較して22,443千円増加し4,272,224千円となりました。これは利益剰余金が22,443千円増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の増加等により増加した資金は21,480千円（前年同四半期比79.7%減）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、関係会社への貸付等により使用した資金は5,780千円（前年同四半期比67.6%減）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により使用した資金は56,766千円（前年同四半期は自己株式の売却などで増加した資金577,105千円）となりました。

この結果当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末より41,066千円減少し、2,380,628千円となっております。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成23年5月13日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年 3 月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,421,694	2,580,628
売掛金	1,107,058	1,551,661
その他	272,284	187,717
流動資産合計	3,801,036	4,320,007
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	164,825	157,815
工具、器具及び備品（純額）	202,700	176,253
その他（純額）	125,167	139,770
有形固定資産合計	492,693	473,839
無形固定資産	67,603	52,675
投資その他の資産		
関係会社株式	603,735	603,735
長期前払費用	189,715	178,462
その他	727,551	624,073
貸倒引当金	△4,892	△4,832
投資損失引当金	△37,600	△37,600
投資その他の資産合計	1,478,508	1,363,838
固定資産合計	2,038,806	1,890,353
資産合計	5,839,842	6,210,360
負債の部		
流動負債		
受託販売未払金	815,942	1,116,492
買掛金	21,728	25,886
未払法人税等	46,290	56,082
賞与引当金	30,010	62,551
その他	187,014	160,913
流動負債合計	1,100,985	1,421,924
固定負債		
退職給付引当金	160,863	174,963
その他	328,212	341,248
固定負債合計	489,075	516,211
負債合計	1,590,061	1,938,136

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年 3 月31日)	当第 2 四半期会計期間 (平成23年 9 月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	551, 500	551, 500
資本剰余金	401, 187	401, 187
利益剰余金	3, 733, 827	3, 756, 270
自己株式	△436, 733	△436, 733
株主資本合計	4, 249, 781	4, 272, 224
純資産合計	4, 249, 781	4, 272, 224
負債純資産合計	5, 839, 842	6, 210, 360

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	13,022,317	12,567,457
売上原価	11,744,422	11,331,433
売上総利益	1,277,894	1,236,023
販売費及び一般管理費	1,169,109	1,133,330
営業利益	108,785	102,692
営業外収益		
受取利息	2,342	2,470
受取配当金	6,275	10,500
その他	7,007	7,726
営業外収益合計	15,625	20,696
経常利益	124,410	123,389
特別損失		
リース解約損	107	—
災害による損失	—	1
特別損失合計	107	1
税引前四半期純利益	124,303	123,387
法人税等	51,337	51,082
四半期純利益	72,966	72,305

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	124,303	123,387
減価償却費	92,632	69,756
賞与引当金の増減額(△は減少)	17,523	32,541
退職給付引当金の増減額(△は減少)	14,489	14,100
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,678	△60
受取利息及び受取配当金	△8,617	△12,970
売上債権の増減額(△は増加)	363,156	△444,824
仕入債務の増減額(△は減少)	△348,954	307,452
未収入金の増減額(△は増加)	426	220
その他	△42,168	△39,438
小計	214,468	50,165
利息及び配当金の受取額	8,576	12,765
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△117,206	△41,450
営業活動によるキャッシュ・フロー	105,838	21,480
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△200,000
定期預金の払戻による収入	—	100,000
有価証券の売却による収入	—	100,000
有形固定資産の取得による支出	△4,508	△10,539
無形固定資産の取得による支出	△1,650	△1,310
貸付けによる支出	△4,000	—
貸付金の回収による収入	26,342	26,068
関係会社貸付けによる支出	△34,000	△20,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,816	△5,780
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△860	—
自己株式の売却による収入	635,644	—
配当金の支払額	△50,952	△49,463
リース債務の返済による支出	△6,726	△7,302
財務活動によるキャッシュ・フロー	577,105	△56,766
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	665,126	△41,066
現金及び現金同等物の期首残高	1,825,402	2,421,694
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,490,528	2,380,628

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

当社は、花き卸売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。

5. 補足情報

品目別売上高

当第2四半期累計期間の販売実績を取扱品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	前年同期比 (%)
受託品 (千円)	12,377,156	96.50
キク類 (千円)	2,531,306	91.33
洋ラン、バラ、カーネーション (千円)	2,888,034	97.35
球根類 (千円)	1,684,761	97.76
草花類 (千円)	3,071,651	97.19
枝物・葉物 (千円)	1,252,828	98.95
鉢物 (千円)	948,574	101.07
買付品 (千円)	135,574	93.85
キク類 (千円)	42,679	
洋ラン、バラ、カーネーション (千円)	4,658	
球根類 (千円)	213	
草花類 (千円)	7,731	
枝物・葉物 (千円)	44,876	
鉢物 (千円)	35,414	
合計 (千円)	12,512,731	96.47

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 上記の金額には、卸売業務に係る付帯業務収益 (当第2四半期累計期間54,725千円) は含まれておりません。